

## 【すべての人に水を届けるために】

沖縄県 下地中学校 一年 新城しんじょう 帆野佳ほの

私にとって、水は生きていく中で一番大切なものです。もしこの世から水がなくなったら、どうなるでしょうか。

私の住んでいる宮古島は、水に恵まれていたとはいえない地域です。今では、県内一番のさとうきびの生産地ですが、昔は干ばつになやまされてきました。降水量は多いのですが、雨水の約半分は蒸発、残り地下へしみこんで海に流れてしまうという地形のためです。そこできたのが、福里ダム・砂川ダム・皆福ダムの三つの地下ダムでした。たくさん地下水を貯め、農地に水を送ることができるようになって、島の農業は発展したのだと思います。

私の祖父母は、宮古島のさらに離島の来間島に住んでいます。来間島には、くりまが来間井とよばれる湧き水でできた井戸があります。がけの下にあり、昔は石でできた階段を上り下りして生活に必要な水をくんでいたそうです。水を得るために大変な苦労があったのです。このような湧き水に、島の人々は感謝し、使われなくなってきた今でも、市の文化財として大切に守られています。四十五年前に、宮古島から海底に埋められた水道管を通って、水を来間島に送ることができるようになりました。たった四十五年前まで、蛇口をひねれば水が出るという環境ではなかったことを知って、とてもおどろきました。誰もが水を飲めるといふ今の環境は、当たり前ではないのです。

しかし、世界では今でも約十二億人が安全な水を確保できていないという話を耳にしたことがあります。また、汚れた水を飲んで亡くなってしまった女の子のことを「コマーシャルで見ました。」でも、生きていくためにはその水を飲み続けるしかない」というその女の子の家族の言葉が、とても重く心に残っています。生きるために大切な水、今私たちに届いている安全な水が貴重であることを意識している人は、どれくらいいるでしょうか。部活動で汗を流した後には飲む水のおいし

さを、私は当たり前もののだと思って、あまり意識していませんでした。水は平等にあるものではないのです。

この世界の水不足の原因の一つが、人口の増加にあるそうです。このことを、私たちの島に置きかえるとどうでしょうか。現在宮古島パブルと言われ、島には数多くの家やアパート、ホテルが建設されています。観光客もどんどん増加しています。たくさんの方が島を訪れ、経済が活性化するのは良いことですが、人が増えると、水の使用量が増えるのは当然です。生活用水も、農業用水も、地下水に頼っている今の状況を考えると、水は無限にあるものではないと思います。

水不足は遠い世界のことではなく、身近なことだと私たち一人一人が考え、節水に取り組んでいかなければなりません。シャワーの時間を決めたり、水を出しっぱなししない、こまめに蛇口をしめる、草花のかん水に雨水を貯めて利用するなど、意識することでできる節水はたくさんあります。また、木を植える、ゴミを捨てるなど環境を守ることが水を守ることもつながります。安全な水がない国に、井戸を作ったり、きれいな水にする技術を考えたりと、水をうばい合うのではなく、分け合い守るために、自分自身の日常を見直し、世界のことをもっと知らなくてはなりません。

蛇口をひねれば水が出てくる。この当たり前のありがたさが、いつまでも続いてほしい。今日生きるための水を得ることができない人々に、安全な水を届けたい。そのために、私はできることから行動しようと思えました。私たち一人一人の努力が、水と命を守っていることを忘れずに、どんな小さなことでも行動する。そして、その行動を続けていきたいです。すべての人に、命の源である水が届く日が来ることを信じて。